

小学校における「考え，議論する」 道徳科授業の在り方に関する研究

—親切，思いやりを体系的に育む問題解決的な学習，道徳的行動に関する体験的な学習を取り入れた指導方法の工夫—

《補助資料目次》

1	問題解決的な学習，道徳的行動に関する体験的な学習の学習指導過程と発問例，活用例	1
2	親切，思いやりの道徳的価値の体系的な指導方法と手立て	3
3	第2学年学習指導案	4
4	第4学年学習指導案	11
5	第6学年学習指導案	17
6	事前・事後アンケート	23

平成29年2月10日
岩手県立総合教育センター
長期研修生
所属校 花巻市立宮野目小学校
佐藤朋広

1 問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習の学習指導過程と発問例、活用例

問題解決的な学習と道徳的行為に関する体験的な学習の学習指導過程と発問例、活用例を【表1】【表2】に示す。学習指導過程に示されている白丸の数字は、問題解決的な学習に関係する学習活動を表し、①、②、③、⑬、⑭は、道徳的行為に関する体験的な学習と共通する学習活動である。黒丸の数字は、道徳的行為に関する体験的な学習に関係する学習活動である。授業実践では、児童の実態やねらいに合わせて、例えば、導入②、展開④⑤⑧⑩、終末⑭といったように学習指導過程を選択していく。また、道徳的行為に関する体験的な活動（☆）は、指導のねらいと児童の実態に応じて必要な学習場面に取り入れる。

【表1】問題解決的な学習の学習指導過程と発問例

導入	1 道徳的価値に根差した問題や道徳的価値について問題意識をもち自己を見つめる場面 主題に対する児童の興味や関心を高め、ねらいの根底にある道徳的価値の理解を基に自己を見つめる動機付けを図る。		
	①教材や日常生活などから道徳的価値に根差した問題を意識する。	②道徳的価値の本当の意味や意義を考える。	③個人的な自分の経験や具体的な事例から、道徳的価値を考える。
	例:どこに問題がありますか。	例:親切とは、何ですか。	例:親切にしてもらってよかったことはありますか。
展開	2 道徳的価値に根差した問題や道徳的価値について多面的・多角的に考える場面 道徳的価値に対する児童一人一人の考え方や感じ方を生かしたり、物事を多面的・多角的に考えたり、児童が自分との関わりで道徳的価値を理解したり、自己を見つめたりする。		
	・教材などを基に、道徳的価値に根差した問題や道徳的価値について考える。		
	④道徳的価値に根差した問題の状況を分析する。	⑤登場人物などの考え方や行為から、道徳的価値を考える。	⑥登場人物などの考え方や行為に対して、考えをもつ。
	例:登場人物は、どうして迷っていますか。	例:登場人物は、どのようなことを思いながら、親切にしたのでしょうか。	例:登場人物の考えている親切に対して、どのように思いますか。
	・教材などを基に、道徳的価値に根差した問題の解決方法を考えたり、道徳的価値について考えたりする。		
	⑦登場人物のために解決策を考え、検討する。	⑧道徳的価値について考える。	⑨自分だったらどうするかを考える。
	例:登場人物は、どうすればいいのですか。	例:見守ることも親切だと思いますか。	例:自分だったら、どうしますか。
・教材や議論したことなどを基に、道徳的価値についての理解を深めたり、考えた解決策を身近な問題に適用したりする。			
⑩解決策から、道徳的価値を考える。	⑪道徳的価値について、さらに深める。	⑫導入で扱った事例や新たな事例などを提示し、問題を解決するシミュレーションを行う。	
例:登場人物は、どうして〇〇を選んだと思いますか。	例:本当の親切とは何だと思いますか。		
終末	3 自己の生き方を考える場面 学習を通して考えたことや新たに分かったことを自己を見つめながら確かめたり、学んだことを更に深く心にとどめたり、これからへの思いや課題について考えたりする。		
	⑬学習を通して考えたことや新たに分かったことを確かめる。	⑭学習を振り返り、これからの自己の目標や課題を考える。	
	例:学習を通して考えたことや新たに分かったことは何ですか。	例:学習したことで、これから生かしていきたいことはありますか。	

【表2】道徳的行為に関する体験的な学習の学習指導過程と発問例、活用例

導 入	1 道徳的価値に根差した問題や道徳的価値について問題意識をもち自己を見つめる場面 主題に対する児童の興味や関心を高め、ねらいの根底にある道徳的価値の理解を基に自己を見つめる動機付けを図る。		
	①教材や日常生活などから道徳的価値に根差した問題を意識する。	②道徳的価値の本当の意味や意義を考える。	③個人的な自分の経験や具体的な事例から、道徳的価値を考える。
	例:どこに問題がありますか。	例:親切とは、何ですか。	例:親切にしてもらってよかったことはありますか。
展 開	2 道徳的価値に根差した問題や道徳的価値について多面的・多角的に考える場面 役割演技などで児童一人一人が考えたり感じたりした内容から、物事を多面的・多角的に考えたりすることで、自分との関わりで道徳的価値を理解したり、自己を見つめたりする。 ・道徳的行為に関する体験的な活動などを通して、道徳的価値に根差した問題や道徳的価値について考える。		
	④道徳的価値に根差した問題場面を把握し考察する。	⑤登場人物の行動の意味や心情を考える。	⑥問題場面を実際に体験する。
	☆動作化などで、問題場面の再現など。 例:登場人物は、どうして～したと思いますか。	☆役割演技などで、行動や心情の再現など。 例:登場人物は、どんな気持ちだったと思いますか。	☆役割演技などで、問題場面を実際に体験するなど。 例:問題場面を体験して、どんなことを思いましたか。
	・道徳的行為に関する体験的な活動などを通して、道徳的価値を理解する。		
	⑦登場人物の行動や心情などを考える。	⑧登場人物の考えや葛藤などを理解する。	⑨解決策を考え、検討する。
	☆役割演技などで、登場人物の心情の再現などを行う。 例:登場人物は、どんな気持ちになったと思いますか。	☆役割演技などで、登場人物の葛藤の再現など。 例:登場人物は、何を迷っているのですか。	☆役割演技などで、問題解決の解決策を実際に行うなど。 例:問題を解決するには、どうすればいいですか。
	・道徳的行為に関する体験的な活動などを通して分かったことから、道徳的価値についての理解を深める。		
⑩体験して考えたり、感じたりしたことから、道徳的価値について考える。	⑪道徳的価値の意味や実現するために大切なことを考える。	⑫解決策に共通する道徳的価値を考える。	
☆動作化などで、道徳的行為をするなど。 例:親切にするためには、何が大切だと思いますか。	☆役割演技などで、道徳的行為をするなど。 例:本当の親切とは何だと思いますか。	☆役割演技などで、共通する道徳的価値に気付くなど。 例:共通することは何ですか。	
終 末	3 自己の生き方を考える場面 学習を通して考えたことや新たに分かったことを自己を見つめながら確かめたり、学んだことを更に深く心にとどめたり、これからへの思いや課題について考えたりする。		
	⑬学習を通して考えたことや新たに分かったことを確かめる。	⑭学習を振り返り、これからの自己の目標や課題を考える。	
	例:学習を通して考えたことや新たに分かったことは何ですか。	例:学習したことで、これから生かしていきたいことはありますか。	

2 親切、思いやりの道徳的価値の体系的な指導方法と手立て

「小学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編 平成27年7月」では、発達段階を基に道徳的価値についての指導内容を発展させて示している。そこで本研究では、まず、低・中・高学年の指導内容を「気付く」「分かる」「生かす」の3つの観点から、体系的な指導方法と手立てによって、めざす親切、思いやりの道徳的価値に具体化する。親切、思いやりにおける「気付く」とは、低学年では自分からの観点で、中学年では、相手の立場に立って、高学年は自分自身に置き換えながら相手の立場や気持ち、相手にとってよりよい行為を判断していくことと捉え、同様に「分かる」とは、低学年では親切、思いやりの大切さやよさ、中学年では相手のことを考えた親切、思いやりのよさ、高学年では相手の立場に立った親切、思いやりのよさが分かると捉える。また、「生かす」とは、低学年では身近な人に、中学年では様々な人に、高学年では接する全ての人に、「気付く」「分かる」から学んだことを基に、相手の立場に立った行為をとろうとしたり、心の準備をしたりすることと捉える。このように親切、思いやりの道徳的価値を育む手立てを体系化したものが、【表3】に示したものである。また、授業においては、児童の発達段階とねらいに合わせてより具体化し、前述の学習指導過程【表1】【表2】に基づき、授業を展開していく。この時、低学年の「人との関わりから相手の考えや気持ちに気付く」という発達段階を考慮し、道徳的行為に関する体験的な学習を多く取り入れたり、高学年の「自他を客観的に捉える」という発達段階から問題解決的な学習を多く取り入れたりすることが効果的ではないかと考え、合わせてその指導方法の工夫として【表3】に表わした。

【表3】 親切、思いやりの道徳的価値の体系的な指導方法と手立て

	発達段階	内容項目の概要	親切、思いやりの道徳的価値を育む手立て			指導方法の工夫	
			3つの観点による指導のねらい				
			気付く	分かる	生かす		
5・6年生	<ul style="list-style-type: none"> ・自他を客観的に捉える。 ・相手の置かれている状況を自分自身に置き換えて想像できるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にすること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身に置き換えながら、相手の気持ちや立場に気付く。 ・相手のためになる親切な行為に気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人間関係などを乗り越えて相手の立場に立って考え、誰にでも親切にすることのよさや大切さが分かる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・接する全ての人に親切にしようとする。 	問題解決的な学習	
3・4年生	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の気持ちをより深く理解する。 ・他の人も、自分たちの考え方や感じ方と同じだと、思い込みがちになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手のことを思いやり、進んで親切にすること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の気持ちや立場に気付く。 ・取るべき親切な行為に気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の気持ちや立場を考えたり、進んで親切な行為をしたりすることのよさや大切さが分かる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な人に進んで親切にしようとする。 		道徳的行為に関する体験的な学習
1・2年生	<ul style="list-style-type: none"> ・自分中心の考え方になりがちになる。 ・人との関わりから、相手の考えや気持ちに気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手のことに気付く。 ・取るべき親切な行為に気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・温かい心で接することのよさが分かる。 ・具体的な親切な行為が分かる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な人に親切にしようとする。 		

第2学年道徳学習指導案

日 時 平成28年10月18日(火) 5校時

対 象 2年2組(男19名女12名計31名)

指導者 佐藤 朋 広

- 1 主題名 相手の本当の気持ちは「親切、思いやり」
教材名 公園のおにごっこ(出典 学研「みんなのどうとく2年」)
- 2 ねらい しんじたちがゆうたと2回目のおにごっこをするために何を話し合ったのかを考えることを通して、温かい心で年下の子と仲よく遊ぶために必要な判断力を養う。

3 主題設定の理由

(1) 道徳的価値について

小学校第1学年及び第2学年の内容項目「親切、思いやり」では、「身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること。」とある。これは、第3学年及び第4学年「相手のことを思いやり、進んで親切にすること。」に発展していく。

本主題は、「温かい心で年下の子と仲よく遊ぶために必要な判断力を養う。」ことをねらいとしている。そこで、温かい心とは、相手に対してどのようなことを考えることなのかについての視点を増やし、相手へ気持ちを向けることへの理解を深めることが必要である。その結果として、親切にされた相手の喜びを自分の喜びとして受け入れられるようにすることで、道徳的価値のよさを理解し、具体的に親切な行為へ生かしていくことが大切と考える。

(2) 児童について

児童はアンケートにおいて、親切とは、主に困っている人を助けること、相手にやさしくすることだと意識しており、対象は学校の友達がほとんどである。具体例として、消しゴムを拾った、遊びに誘ったなどがあり、親切にされたことでは、一輪車を貸してくれた、泣いている時声をかけてくれたなどがある。親切にする時に、相手の様子から行動しており、相手の気持ちまでは目を向けていない傾向がある。このことから、人の気持ちを考えて行動することの大切さを理解することが必要と考える。

(3) 教材について

本教材「公園のおにごっこ」は、相手の気持ちに気付き、相手の気持ちに合わせて行動することの大切さへの考えを深めることを目的としている。

主人公のしんじたちは、みんなと同じように走れない幼稚園のゆうたとおにごっこをする。しかし、よしえやみんなは、ゆうたをつかまえようとはしなかったため、ゆうたはおにごっこをやめてしまう。そこで、みんなは、どうしてやめてしまったのかを考え、もう一度ゆうたをおにごっこに誘う。しんじがゆうたにタッチするとゆうたは元気になり、みんなも夢中になっておにごっこをするという内容の教材である。

(4) 指導にあたって

本教材を通して、小さな子と仲よくするには、相手のことや気持ちを考えることが大切であることを捉えさせたい。この授業では、しんじたちと同じように2回目のおにごっこをするために何を考えればいいのかを議論する活動を行う。この活動を通して、この活動を通して、相手のことや気持ちを考えるよさを感じさせたい。そのため、ア～ウの工夫を行っていく。

ア 体験的な学習を取り入れた授業の工夫

(ア) 自己を見つめる場面の設定

導入場面では、自分たちの遊びを想起させ、ゆうたがジャングルジムに一人でいる教材の挿絵を提示し、仲よく遊ぶことに問題意識をもたせる。また、展開場面では、しんじたちの親切に気付かせ、相手のことを考えてもその思いが伝わらないことに共感させる。また、2回目のおにごっこを仲よく遊ぶためにしんじたちは何を考えたかを自分のこととして考えさせる。終末場面では、学習してきた思いやりに対してこれまでの自分の経験や考え方などを振り返り、自己の生き方を考えることにつなげる。

(イ) 多面的・多角的に考え、議論する場面の設定

展開のしんじたちの話合いを考える場面において「しんじたちはどんなことを考えれば、2回目のおにごっこはうまくいくでしょうか。」という発問を、ペアで考えさせる。温かい心で接するには、「ゆうたの気持ち」「ゆうたが嫌だったこと(原因)」「ゆうたに合ったおにごっこ(おにごっこの仕方)」の視点が必要である。さらに、しんじたちの話合いのシナリオ(自作)を渡し、役割演技をさせる。シナリオと、自分たちの考えを比べさせることで、温かい心で相手を考える視点を増やしたり確かめたりする。また、ゆうたが元気になったことから、相手のことや気持ちを考えることの大切さを捉えさせる。

(ウ) 自己の生き方を考える場面の設定

友だちと仲よくするためにはどんなことが大切かについて自分の考えをまとめ、今までの生活を振り返ったり、これからの生き方を考えたりするために、ワークシートに自分の考えを整理させる。

イ 親切、思いやりの道徳的価値を育む手立て

p. 3の【表3】親切、思いやりの道徳的価値の体系的な指導方法と手立てより、本時における親切、思いやりの道徳的価値を育む手立てを発問や活動を通して授業の中に位置付けていく。

気付く	分かる	生かす
①しんじたちの親切に気付く。 ②しんじたちが考えたことに気付く。	①相手のことや気持ちを考える視点が分かる。 ②相手のことや気持ちを考えることの大切さが分かる。	①友だちと仲よくするために、相手のことや気持ちを考えようとする。

ウ 道徳的行為に関する体験的な学習を取り入れた授業における基本となる学習指導過程

本時のねらいから、前項2の【表2】道徳的行為に関する体験的な学習の学習指導過程と発問例、活用例より、学習過程を下記のように設定する。

導入	1 道徳的価値に根差した問題や道徳的価値について問題意識をもち自己を見つめる場面 ①教材や日常生活などから道徳的価値に根差した問題を意識する。 【発問】「遊んでいて、仲よく遊べなかったことはありませんか。」
	2 道徳的価値に根差した問題や道徳的価値について多面的・多角的に考える場面 ④道徳的価値に根差した問題場面を把握や考察する。 【気付く①】 【発問】「どうしてしんじたちは、ゆっくり走ったり、急に向きを変えたりしたのでしょうか。」 ⑦登場人物の行動や心情などを考える。 【気付く②分かる①】 【中心発問】「しんじたちは、どんなことを考えたのでしょうか。」 【発問】「しんじたちが考えたことと、同じところや違うところ、気が付かなかったところがありましたか。」 ⑩体験して考えたり、感じたりしたことから、道徳的価値について考える。 【分かる②】
終末	【発問】「2回目のおにごっこは、どうしてうまくいったのでしょうか。」
	3 自己の生き方を考える場面 ⑭学習した道徳的価値に自分なりの考えをまとめる。 【生かす①】

4 授業の展開

(1) 展開

段階	学習活動と主な発問	期待する児童の反応	支援
道徳的価値に根差した問題や道徳的価値について問題意識をもち自己を見つめる場面			
導入 7	<p>問題①</p> <p>1 遊びの場面を想起し、自分の経験を振り返る。</p> <p>2 本時の学習の方向性を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ない。 ・あった。 ・この前あった。 	<p>ア 自己を見つめる。 自分たちの遊びを想起させ、ゆうたがジャングルジムに一人での教材の挿絵を提示し、仲良く遊ぶことに問題意識をもたせる。</p>
	なかよく遊ぶためには、どうすればいいのかな。		<ul style="list-style-type: none"> ・しんじたちのしたことに気を付けて聞くように伝え、しんじの立場から考えさせる。 ・ゆうたの設定を確認し、挿絵を板書に掲示することで、話の全体像を位置付ける。
7	<p>3 教材を読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あらすじを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園。 ・みんなと同じように走れない。 ・遊ぶのが大好き。 	
道徳的価値に根差した問題や道徳的価値について多面的・多角的に考える場面			
展開 30	<p>4 教材「公園のおにごっこ」について話し合う</p> <p>体験④ ○どうして、ゆうたたちは、ゆっくり走ったり、急に向きを変えたりしたのでしょうか。</p> <p>体験⑦ ◎しんじたちはどんなことを考えれば、2回目のおにごっこはうまくいくのでしょうか。ペアで話し合みましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆうたが同じように走れないから、ゆうたがつまらなくなるから。 ・ゆうたがおにだと捕まえられないから大変だから。 ・ゆうたが、おにごっこをしやすいように。 ・ゆうたが楽しむため。 <p>◇ゆうたが嫌だったこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゆっくり走ったから。 ・急に向きを変えたから。 <p>◇ゆうたの気持ち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つまらない。 ・嫌だ。 ・みんなと同じがいい。 ・追いかけてほしい。 ・タッチしてほしい。 <p>◇ゆうたに合ったおにごっこ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・追いかける。 ・タッチする。 ・向きを変えない。 	<p>ア 自己を見つめる。 しんじたちの親切に気付かせ、相手のことを考えてもその思いが伝わらないことに共感させる。</p> <p>【気付く①】 しんじたちの親切に気付く。 ・しんじたちの行為が、ゆうたのことを考えた行為であるが、ゆうたの気持ちと合わなかったことを押さえる。</p> <p>【気付く②】 しんじたちが考えたことに気付く。</p> <p>ア 自己を見つめる。 2回目のおにごっこを仲良く遊ぶためにしんじたちは何を考えたかを考えさせることで、しんじを通して自分の考える視点をもたせる。</p>

	<p>・ 全体の話し合い</p> <p>・ 役割演技</p> <p>○ しんじたちが考えたことと、同じところや違うところ、気が付かなかったところはありませんか。</p> <p>体験⑩ ○ 2 回目のおにごっこは、どうしてうまくいったのでしょうか。</p>	<p>・ うまくいかなかったわけが同じだった。</p> <p>・ ゆうたの気持ちが違かった。</p> <p>・ 遊び方が考えつかなかった。</p> <p>・ ゆうたの気持ちを考えて行動したから。</p> <p>・ 考えたことがゆうたの気持ちと合ったから。</p> <p>・ 相手のことだけでなく気持ちも考えたから。</p>	<p>【分かる①】 相手のことや気持ちを考える視点が分かる。</p> <p>イ 多面的・多角的に考える。 「ゆうたの気持ち」「ゆうたが嫌だったこと(原因)」「ゆうたに合ったおにごっこ(おにごっこの仕方)」の視点で考えを板書に位置付け、役割演技前に児童の考えを分類する。</p> <p>イ 多面的・多角的に考える。 シナリオと自分たちの考えを比べ、同じところ、違うところ、気が付かなかったところを見付けさせ、温かい心で相手を考える視点を増やしたり確かめたりさせる。</p> <p>イ 多面的・多角的に考える。 全体で議論することで、自分たちの考えを確かめたり、新たな考え方に気付いたりさせる。</p> <p>【分かる②】 相手のことや気持ちを考えることの大切さが分かる。</p> <p>イ 多面的・多角的に考える。 相手のことや気持ちを考えることの大切さを捉えさせる。</p>
<p>終末 8</p>	<p>問題⑭ 5 本時で学習した内容を振り替える。 ○ 今日の学習で、仲よく遊ぶには、どうすることが大切だと思いましたか。</p>	<p>・ 友達が困っていたら、困っている気持ちを考えて行動したい。</p> <p>・ 遊んでいる時に嫌な気持ちになっている人がいたら、その気持ちを考えて行動する。</p> <p>・ 仲良く遊べなかったら、相手の気持ちを考えて、遊び方を変えたい。</p> <p>・ 小さい子の気持ちをよく考えて、一緒に遊びたい。</p>	<p>【生かす①】 友だちと仲良くするために、相手のことや気持ちを考えようとする。</p> <p>ウ 自己の生き方を考える。 友だちと仲良くするためにはどんなことが大切かについて自分の考えをまとめ、今までの生活を振り返ったり、これからの生き方を考えたりするために、ワークシートに自分の考えを整理させる。</p> <p>・ 教師が2年生の時、1年生の折り紙を代わりに作って失敗した話をする。</p>
	<p>6 教師の説話を聞く</p>		

(2) 板書計画

<p>公園のおにごっこ</p>	<p>なかよく遊ぶためには、どうすればいいのかな。</p>	<p>ゆうたが しんじたちに おにごっこに 入れてもらう 絵</p> <p>ゆうた ようち園 同じように走れない あそぶのが大好き</p>	<p>一回目のおにごっこ</p>	<p>きゆうにむきを かえた わざとおそく ゆうたのこと 走れない おにはたいへん</p> <p>気もちが合わなかった</p> <p>ゆうたが ジャンブルジムに いる絵</p>	<p>ゆうちゃんは、どうしてやめちやったのかな？</p>	<p>考えた</p> <p>さそった</p> <p>○いやだったこと ・むきをかえた ・わざとおそく ○ゆうたの気持ち ・いやだ ・みんなと同じがいい ・おいかけてほしい ・タッチしてほしい</p>	<p>二回目のおにごっこ</p>	<p>おいかける タッチ</p> <p>○ゆうたにあつたおにごっこ ・おいかけよう ・タッチしよう</p>	<p>あいてのことや 気もちを考える ← 行動する 親切</p> <p>気もちが合った うれしい 考えてよかった</p> <p>親切 元気 はりきった</p> <p>みんなが 楽しく おにごっこを している絵</p>
-----------------	-------------------------------	---	------------------	--	------------------------------	---	------------------	---	--

第4学年道徳学習指導案

日 時 平成28年10月13日(木) 2校時

対 象 4年2組(男19名女15名計34名)

指導者 佐藤 朋広

- 1 主題名 思いやる心を伝えよう [親切, 思いやり]
教材名 心の信号機(出典 学研「みんなのどうとく4年」)
- 2 ねらい ぼくが葛藤を乗り越えて目の不自由な人に親切にした姿を通して、相手の立場を考え、行動化できない心理状況を克服し進んで親切にしようとする道徳的判断力を養う。

3 主題設定の理由

(1) 道徳的価値について

第3学年及び第4学年の内容項目 [親切, 思いやり] では、「相手のことを思いやり、進んで親切にすること。」とある。これは、第1学年及び第2学年の内容項目「身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること。」を受けたものであり、さらに、第5学年及び6学年の内容項目「誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にすること。」に発展している。

本主題は、「相手の立場を考え、行動化できない心理状況を克服し進んで親切にしようとする道徳的判断力を養う。」ことをねらいとしている。そこで、相手の置かれている状況、困っていること、大変な思いをしていること、悲しい気持ちでいることなどを自分のこととして想像することによって相手のことを考え、親切にした方がいいことは分かっているにもかかわらず実行できない自分の弱さを乗り越えることが、進んで親切を行うことへの理解を深めていくことが大切であると考え。

(2) 児童について

児童はアンケートにおいて、思いやりとは、相手の気持ちを考えること、親切とは、困っている人を助けることと考えている。具体例として、ティッシュをあげた、けがした人に大丈夫と声をかけたなどであり、学校生活の中で困っている友達を助けたり手伝ったりしている。また、障がいをもつ人を手伝うかどうか迷った経験はなかった。年間計画に基づいて事前にキャップハンディ体験を行い、アイマスクを付け、白杖をついて歩く体験をしている。「こわかった」「手伝ってあげたい」と言った感想があった。このことから、相手の状況や気持ちを想像し、相手に関わらず親切にすることへの理解を深めることは、よりよい生き方を考えるうえで意義があると考え。

(3) 教材について

本教材は、主人公のぼくが、目の不自由な人の立場に気付き、横断歩道を渡る手伝いをしようと思うが、知らない人に声をかけることへの不安で葛藤する。しかし、最後は思い切って声をかけ手助けをするという内容の教材である。

(4) 指導にあたって

本教材を通して、行動化できない心理状況を克服し思いやりのある行為を行おうとするには、相手の立場や気持ちを考えることや自分の弱さを乗り越えることが大切であることを捉えさせたい。この授業では、自分が親切しようとするきっかけは何かを議論する活動を行う。この活動を通して、親切にするには相手のことと自分のことを考える必要があり、親切にしようとするきっかけを増やしたり、見つけさせたりしていきたい。そのため、ア～ウの工夫を行っていく。

ア 問題解決的な学習を取り入れた授業の工夫

(ア) 自己を見つめる場面の設定

導入場面では、ある男の子が車いすの人を手伝った話から、どんなスイッチが入ったか考えさせ、親切スイッチはどうすれば入るのかという問題意識をもたせる。また、あらすじを確認する時、キャップハンディ体験の経験から、目の不自由な人の立場や気持ちを考えさせる。展開場面では、「みんなが僕の立場だったら、あなたの親切スイッチは、どうすれば入りますか。」と発問することで、自分の弱さに気付き、自分なりの葛藤の乗り越え方に気付かせる。終末場面では、学習してきた思いやりに対してこれまでの自分の経験や考え方を振り返り、自己の生き方を考えることにつなげる。

(イ) 多面的・多角的に考え、議論する場面の設定

知らない人に親切にする時にある恥ずかしさや不安などといった自分の弱さを確認した後、「みんなが僕の立場だったら、あなたの親切スイッチは、どうすれば入りますか。」と発問する。自分の弱さを乗り越え親切にするためには、「勇気を出す」「相手を思う」「相手の立場を考える」などの「勇気」「親切、思いやり」といった道徳的価値から考え、議論する中で、進んで親切にするために自分に必要なことへの理解を深めていく。

(ウ) 自己の生き方を考える場面の設定

親切スイッチはどうすれば入るのかについて自分の考えをまとめ、今までの生活を振り返ったり、これからの生き方を考えたりするために、ワークシートに自分の考えを整理させる。

イ 親切、思いやりの道徳的価値を育む手立て

p. 3の【表3】親切、思いやりの道徳的価値の体系的な指導方法と手立てより、本時における親切、思いやりの道徳的価値を育む手立てを発問や活動を通して授業の中に位置付けていく。

気付く	分かる	生かす
①目の不自由な人の立場や気持ちに気付く。 ②自分なりの葛藤の乗り越え方に気付く。	①行動化できない心理状況を克服し、親切にする大切さが分かる。	①自分のできる親切をしようとする。

ウ 問題解決的な学習を取り入れた授業における基本となる学習指導過程

本時のねらいから、前項1の【表1】問題解決的な学習の学習指導過程と発問例、活用例より、学習過程を下記のように設定する

導入	1 道徳的価値に根差した問題や道徳的価値について意識させる場面 ①教材や日常生活などから道徳的価値に根差した問題を意識する。 【発問】「どんなスイッチだと思いましたか。」
	2 道徳的価値に根差した問題や道徳的価値を多面的・多角的に考え、議論する場面 ④道徳的価値に根差した問題の状況を分析する。 【気付く①】 【発問】「どうして手伝おうとしたのに、足がゆっくりになったのでしょうか。」
	⑤登場人物などの考え方や行為から、道徳的価値を考える。 【発問】「ぼくが、行動に移すことができたのは、どうしてでしょう。」 ⑨自分だったらどうするかを考える。 【分かる①】【気付く②】 【中心発問】「あなたがぼくと同じ立場だったら、手伝いたい気持ちを行動で表すための親切スイッチは何でしょうか。」
終末	3 自己を見つめ自己の生き方を考える場面 ⑭学習を振り返り、これからの自己の目標や課題を考える。 【生かす①】 【発問】「今日の学習でわかったことは何ですか。」

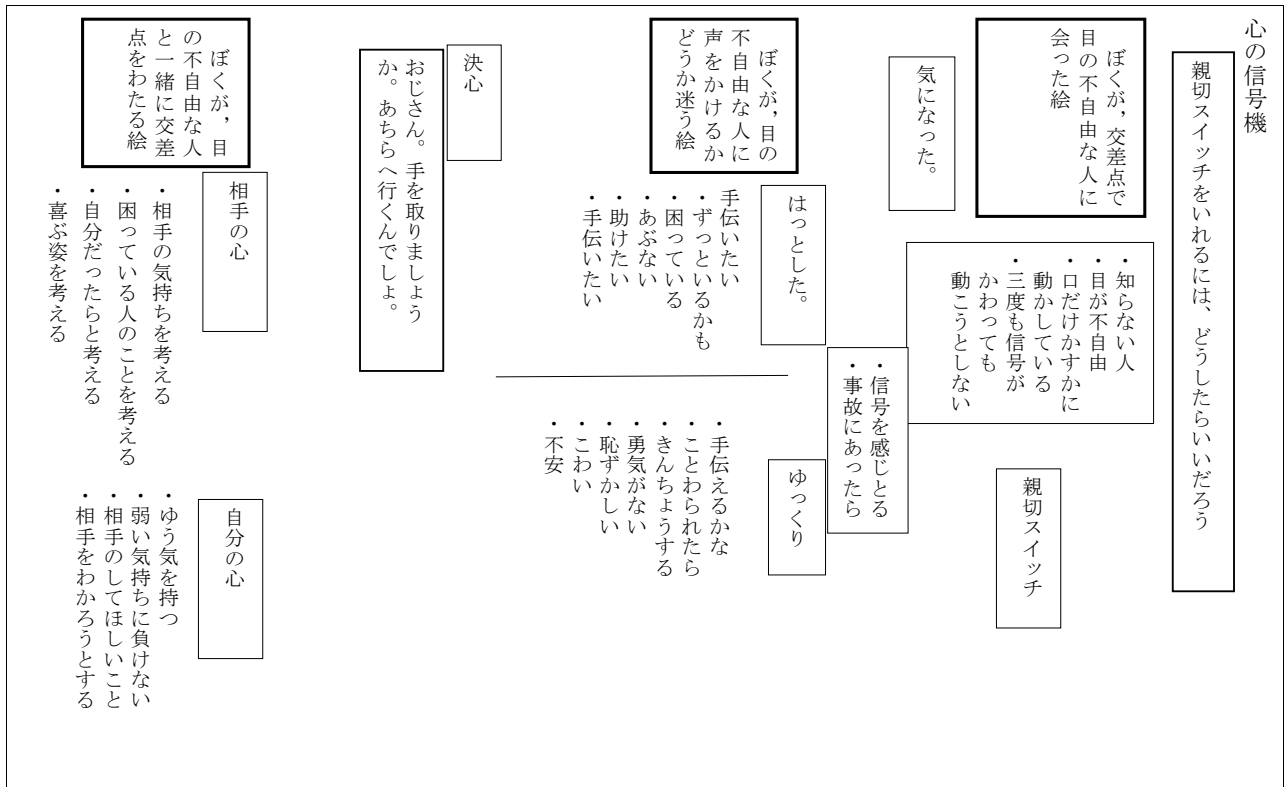
4 授業の展開

(1) 展開

段階	学習活動と主な発問	期待する児童の反応	支援
道徳的価値に根差した問題や道徳的価値について問題意識をもち自己を見つめる場面			
導 入 5	<p>問題①</p> <p>1 日常生活から道徳的な問題を意識させる。 ○どんなスイッチだと思いましたか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・困っている人を助けるスイッチ ・親切にするスイッチ ・恥ずかしがらないスイッチ ・いいことをするスイッチ 	<p>ア 自己を見つめる。 実際に教師が見た事例を紹介し、相手が困っている姿を見たら手伝おうと心が切り替わることを意識させ、そのきっかけに問題意識をもたせる。</p>
	親切スイッチをいれるには、どうすればいいのだろう。		
	<p>2 本時の学習の方向性を確認する。</p> <p>3 教材を読み、あらすじを確認する。 ○キャップハンディ体験をして、どんな感想をもちましたか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・こわかった。 ・緊張した。 ・不安だった。 ・手伝いたいと思った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・親切にするきっかけは何かということを見つけることに問題意識をもたせ、課題を設定する <p>【気付く①】 目の不自由な人の立場や気持ちに気付く。</p> <p>ア 自己を見つめる。 キャップハンディ体験の経験を生かして、目の不自由な人の立場から困難さや気持ちを考えさせることで、困っている人の気持ちを考える大切さに気付かせる。</p>
道徳的価値に根差した問題や道徳的価値について多面的・多角的に考える場面			
展 開 38	<p>4 主人公の気持ちや行動を考える</p> <p>問題④ ○ぼくははっとして気がついた時、どうしたいと思ったでしょう。</p> <p>問題④ ○どうして手伝おうとしたのに、足がゆっくりになったのでしょうか。</p> <p>問題⑤ ○手伝いたいと思っていたけど、なかなか手伝えなかった主人公が行動に移せたのは、どうしてでしょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・助けたい。 ・手伝いたい。 ・いっしょにわたりたい。 ・声をかけたい。 <ul style="list-style-type: none"> ・知らない人は怖い ・知らない人が安全か心配 ・声の掛け方がわからない ・目の不自由な人の手伝い方がわからない <ul style="list-style-type: none"> ・相手の気持ちを考えたから。 ・勇気を持ったから。 ・自分だったらと考えたから。 	<p>【気付く①】 ぼくの立場や気持ちに気付く。</p> <p>ア 自己を見つめる。 ぼくの目の不自由な人を助けたいけど行動できないという思いに気付かせる。</p> <p>【分かる①】 行動化できない心理状況を克服し、親切にする大切さが分かる。</p>

	<p>5 自分との関係で、問題を考える。</p> <p>問題⑨</p> <p>◎あなたがぼくと同じ立場だったら、手伝いたい気持ちを行動で表すための親切スイッチは何でしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・相手のことを考える。 ・相手の気持ちを考える。 ・勇気を持つ。 ・手伝わないと後悔する。 	<p>イ 多面的・多角的に考える。</p> <p>相手のことを考えること、自分の弱い気持ちを乗り越えて親切にすることが、相手のためになる行為へとつながったことを理解させる。</p> <p>【気付く②】</p> <p>自分なりの葛藤の乗り越え方に気付く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人，4人グループ，全体の順で考える。 <p>ア 自己を見つめる。</p> <p>自分の弱さに気付き、自分なりの葛藤の乗り越え方に気付かせる。</p>
<p>自己の生き方を考える場面</p>			
	<p>問題⑭</p> <p>6 本時で学習した内容を振り替える</p> <p>○あなたが、困っている人に親切にする時に、どんなことが大切だと思いましたか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・困っているのかなと気付いてあげて、相手のことを考える。 ・手伝おうと思ったら、弱い心に負けず、勇気を出す。 	<p>【生かす①】</p> <p>自分のできる親切をしようとする。</p> <p>ア 自己を見つめる。</p> <p>学習したことに対してこれまでの自分の経験や考え方などを振り返り、自己の生き方を考えることにつなげる。</p> <p>ウ 自己の生き方を考える。</p> <p>親切スイッチはどうかすれば入るのかについて自分の考えをまとめ、今までの生活を振り返ったり、これからの生き方を考えたりするために、ワークシートに自分の考えを整理させる。ワークシートに自分の考えを整理させる。</p>
<p>終末 2</p>	<p>7 教師の説話を聞く。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・親切にする場面に気付く良さをキャップハンディ体験と関連させて話す。

(2) 板書計画



第6学年道徳学習指導案

日 時 平成28年11月11日(金) 3校時

対 象 6年生(男18名女18名計36名)

指導者 佐藤 朋 広

1 主題名 人への思いやり [親切, 思いやり]

教材名 車いすでの経験から(出典 東京書籍 小学校道徳6年「明日をめざして」)

2 ねらい 駅員さんたちのぼくや母に対する思いやりを考えることを通して、相手の立場に立って考える意義が分かり、誰に対しても親切にしようとする道徳的心情を育む。

3 主題設定の理由

(1) 道徳的価値について

第5学年及び6学年の内容項目「親切, 思いやり」では、「誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にすること。」とある。これは、中学校の内容項目[思いやり, 感謝]の「思いやりの心をもって人と接するとともに、家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間愛の精神を深めること。」へと発展していく。

本主題は、「相手の立場に立って考える意義がわかり、誰に対しても親切にしようとする道徳的心情を育む。」ことをねらいとしている。そこで、相手の気持ちや立場を自分のことに置き換えて推し量り、相手に対してよかれと思う気持ちを相手に向けることの意義に気付かせ、誰に対しても親切にしていくよさへの理解を深めたい。

(2) 児童について

児童はアンケートにおいて、思いやりとは、相手の気持ちを考えること、親切とは、困っている人を助けることという意識があり、対象は学校の友達がほとんどである。相手を手伝う時、相手の立場に立って考えた行為をしようとする意識は少ない。親切は、相手へ思いやりを届ける行為であり、その相手を感じる心への理解を深めていくことは、さらによりよい生き方を送ることにつながっていくと考える。

(3) 教材について

本教材は、東京書籍小学校道徳6年「明日をめざして」に収録されている読み物教材である。

主人公のぼくは、車いすで電車に乗って帰宅しなければならず、不安に思う。しかし、駅員さんに車いすを持ってもらったり、次の駅に連絡してくれたりと様々な親切を受ける。その経験から、知らないおばあさんにも声をかけて手伝えるようになったという内容の教材である。

(4) 指導にあたって

本教材を通して、ただ親切にしようとするのではなく、相手の立場や気持ちを推し量り、相手のためにどのように行動すればいいのかを考えて行為に表そうとする思いやりを考えさせたい。この思いやりを「1つ先の思いやり」とし、ぼくと母に向けられた駅員さんの思いやりから、困っている人がいるから手伝おうと思うだけではなく、そこに、相手のためにどうすることがいいのかと考える思いやりが大切なことに気付かせたい。また、ぼくが駅員さんの思いやりを受け取って知らないおばあさんにも自然に手伝えるようになったことから、相手の思いやりが伝わると、その思いやりを誰かに届けたくなり、思いやりがつながっていくよさを捉えさせ、集団や社会との関わりに目を向けさせていきたい。この授業では、駅員さんの思いやりが伝わる親切を見つけ、その気持ちから、思いやりとは何かを議論する活動を行う。この活動を通して、相手のことや気持ちを考えるよさを感じさせたい。

ア 問題解決的な学習を取り入れた授業の工夫

(ア) 自己を見つめる場面の設定

導入場面では、事前アンケートから親切、思いやりの道徳的価値への理解が不十分であることに気付かせ、問題意識をもたせる。展開場面では、ぼくと母の不安な気持ちから駅員さんに手伝って欲しいことを考えさせ、それに答えることが自分たちの価値理解であったことに気付かせる。また、駅員さんの親切から、自分たちの理解と異なる相手の立場に立って考えた行為をしようとする思いやりに気付かせる。終末場面では、学習してきた思いやりに対してこれまでの自分の経験や考え方などを振り返り、自己の生き方を考えることにつなげる。

(イ) 多面的・多角的に考え、議論する場面の設定

駅員さんのぼくや母への気遣いが分かる親切な行為を見つけ、その親切に至る思いやりを多面的・多角的に捉えさせる。駅員さんの思いやりには、不安な心を安心させようとする、相手が困ることを予想して困らないようにしようとする、相手が喜ぶような行為をしようとするなどの相手の立場に立って考えた行為をしようとする思いやりがある。また、ぼくがこの経験から知らない人でも自然と手伝えるようになったことに着目させ、思いやりのある行為は広がっていくという面も捉えさせる。

(ウ) 自己の生き方を考える場面の設定

1つ先の思いやりについて自分の考えをまとめ、今までの生活を振り返ったり、これからの生き方を考えたりするために、ワークシートに自分の考えを整理させる。

イ 親切、思いやりの道徳的価値を育む手立て

p. 3の【表3】親切、思いやりの道徳的価値の体系的な指導方法と手立てより、本時における親切、思いやりの道徳的価値を育む手立てを発問や活動を通して授業の中に位置付けていく。

気付く	分かる	生かす
①ぼくと母の車いすで電車を利用する不安に気付く。 ②駅員さんの親切から、ぼくや母への思いやりに気付く。	①駅員さんの思いやりの意義がわかる。 ②ぼくが思いやりを社会へ広げた良さが分かる。	①自分なりの思いやりや親切の生かし方を考える。

ウ 問題解決的な学習を取り入れた授業における学習過程

導入	1 道徳的価値に根差した問題や道徳的価値について問題意識をもち自己を見つめる場面		
	②道徳的価値の本当の意味や意義を考える。 【発問】「困っているのは同じなのに、どうして違う親切が生まれてきたのだろう。」		
	2 道徳的価値に根差した問題や道徳的価値について多面的・多角的に考える場面		
展開	④道徳的問題の状況を分析する。 【気付く①】 【発問】「母は、駅員さんにどんなことをしてほしいと思っていたでしょう。」		
	⑤登場人物などの考え方や行為から、道徳的価値を考える。 【気付く②】 【中心発問】「駅員さんたちの1つ先の思いやりが分かる親切とその時の気持ちを考えましょう。」		
	⑧道徳的価値について考える。 【分かる①】 【発問】「1つ先の思いやりとは、何でしょうか。」		
	⑩道徳的価値について、さらに深める。 【分かる②】 【発問】「どうしてぼくは、おばあさんに自然に声をかけることができたようになったのでしょうか。」		
	終末	3 自己の生き方を考える場面	
		⑭学習を振り返り、これからの自己の目標や課題を考える。 【生かす①】 【発問】「今日の学習でわかったことは何ですか。」	

4 本時の展開

(1) 展開

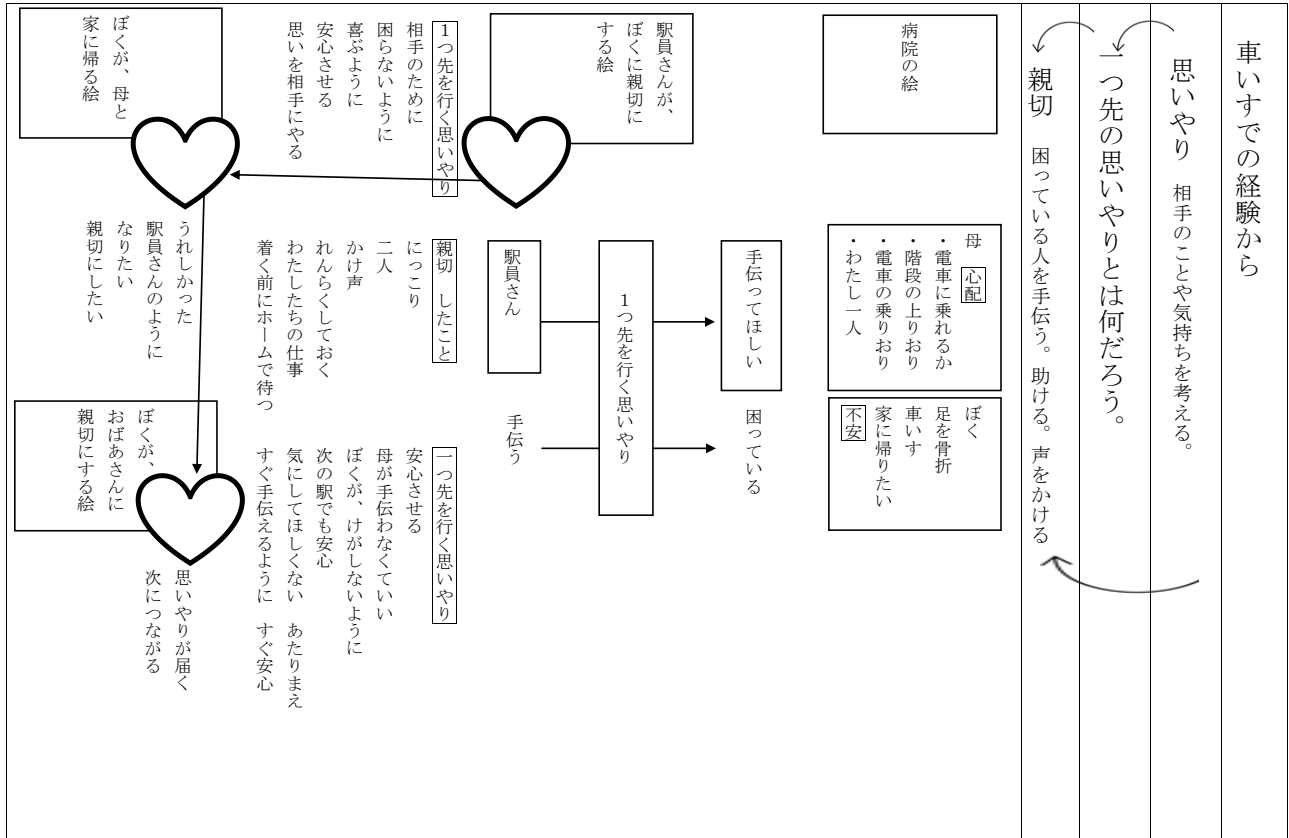
段階	学習活動と主な発問	期待する児童の反応	支援
道徳的価値に根差した問題や道徳的価値について問題意識をもち自己を見つめる場面			
導 入 4	<p>問題②</p> <p>1 道徳的価値の本当の意味や意義を考える。</p> <p>○同じ教えるでも、どうして違う親切が生まれたのかな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 相手のことを考えたから。 相手によって、親切を変えるから。 困り方が違うから。 	<p>ア 自己を見つめる。</p> <p>事前アンケートから、多くの児童が思いやりを相手のことや気持ちを考えること、親切を困っている人を助けることと捉えていたことを紹介し、親切にしたことの具体的な記述から、困っていることは同じなのに親切が違うのはなぜかを考えさせることで、困っているから手伝うではなく、相手のことや気持ちを考えた先に、親切につながる思いやりがあることに気付かせ、問題意識をもたせる。</p>
	<p>2 本時の学習課題を確認する。</p>		<ul style="list-style-type: none"> 相手の立場に立って考えた行為をしようとする思いやりを1つ先の思いやりとし、どんな思いやりなのかを考えていく学習の方向付けをする。
	1つ先の思いやりとは、何だろう。		
	<p>3 教材を読みあらすじを確認する。</p>		<ul style="list-style-type: none"> 読む前に、駅員さんの思いやりを考えていくため、駅員さんの親切に気を付けて聞くように指示する。 あらすじの確認では、駅に行く前のぼくと母の置かれている状況を主に把握し、展開場面での二人の気持ちの読み取りにつなげる。
道徳的価値に根差した問題や道徳的価値について多面的・多角的に考える場面			
展 開 33	<p>4 教材を読み、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> あらすじを確認する。 <p>問題④</p> <p>○母は、駅員さんにどんなことをしてほしいと思っていたでしょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 電車に乗れるのか。 電車の乗り降りを手伝ってほしい。 階段の上り下りを手伝ってほしい。 だれか手伝ってほしい。 	<p>【気付く①】</p> <p>ぼくと母の車いすで電車を利用する不安な気持ちに気付く。</p>
	<p>5 駅員さんたちの1つ先の思いやりについて議論する。</p> <p>問題⑤</p> <p>◎駅員さんたちの1つ先の思いやりがわかる親切とその時の気持ちを書きましよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◇にっこり ・不安にさせないように。 ◇二人 ・母が手伝わなくていい。 ◇次の駅に連絡 ・電車の中も降りても安心。 	<p>ア 自己を見つめる【気付く】</p> <p>ぼくと母の不安な気持ちから駅員さんに手伝ってほしいことを考えさせ、それに答えることが自分たちの価値理解であったことに気付かせる。</p> <p>【気付く②】</p> <p>駅員さんの親切から、ぼくや母への思いやりに気付く。</p> <p>ア 自己を見つめる。</p> <p>駅員さんの親切から、相手の立場に立って考えた行為をしようとする思いやり気付かせる。</p>

	<p>6 1つ先の思いやりについて議論する。</p> <p>問題⑧</p> <p>○1つ先の思いやりとは何でしょうか。</p> <p>問題⑩</p> <p>○どうして「おばあさん、荷物持ちましょうか。」と自然に声をかけることができるようになったのでしょうか。</p>	<p>◇わたしたちの仕事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気を遣わせない。 <p>◇着く前にホームで待つ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安心して降りられるように。 <ul style="list-style-type: none"> ・相手の本当の気持ちを考えて、行動を考えること。 ・相手のためになることを考えること。 ・相手がどうすれば困らないか考えること。 ・相手が喜ぶことを考えること。 ・相手を安心させること。 <ul style="list-style-type: none"> ・駅員さんのようになりたいと思ったから。 ・おばあさん気持ちを深く考えたから。 ・たくさん親切にしたから返したくなったから。 ・遊びはいつでもできるが、おばあさんの親切は今しかできないから。 ・骨折して、親切にされることがとてもうれしいと気付いたから。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>イ 多面的・多角的に考える。 不安な心を安心させようとする、相手が困ることを予想して困らないようにしようとする、相手が喜ぶような行為をしようとするなどの相手の立場に立って考えた行為をしようとする思いやりを捉えさせる。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・4人グループ、全体の順で議論することで、自己の考え話し、他者との考えと比べる機会を設定する。 <p>【分かる①】 駅員さんの思いやりの意義が分かる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>イ 多面的・多角的に考える。 児童が捉えた思いやりの共通点から、相手の立場に立って考えた行為をしようとする思いやりを捉えさせる。</p> </div> <p>【分かる②】 ぼくが思いやりを社会へ広げた良さが分かる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>イ 多面的・多角的に考える。 ぼくの行動は、駅員さんの思いやりから生まれた行動であり、親切にされると自分も誰かに親切にしたいくなることに共感させ、その思いやりがつながる良さを感じ取らせる。</p> </div>
--	---	---	--

自己の生き方を考える場面

<p>終 末 8</p>	<p>7 本時の学習した内容を振り替える。</p> <p>問⑭</p> <p>○今日の学習でわかったことを書きましよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・相手のために思うことで、思いやりが広まっていく。 ・相手のためによりよいことを考えることが大切だ。 	<p>【生かす①】 自分なりの思いやりや親切の生かし方を考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ア 自己を見つめる。 学習してきた思いやりに対してこれまでの自分の経験や考え方などを振り返り、自己の生き方を考えることにつなげる。</p> <p>ウ 自己の生き方を考える。 1つ先の思いやりについて自分の考えをまとめ、今までの生活を振り返ったり、これからの生き方を考えたりするために、ワークシートに自分の考えを整理させる。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなの書いたことを実践していけば、素敵な世の中になると思わないかと問いかけて終わる。
	<p>7 教師の説話を聞く</p>		

(2) 板書計画



道徳アンケート 中学年用

H28年 月 日

4年 組 番 名前

アンケートの書き方

- 1 今日のことので答えましょう。
- 2 ア イ ウ エ に○をつけましょう。

- 1 ^{どうとく}道徳の学習で、どんなことがすきですか。すきなことぜんぶに、○をつけましょう。
なかった人は、キ に○をつけましょう。

- ア 話を聞いたり読んだりすること イ 考えること
- ウ 発表すること（話すこと） エ 友だちの考えを聞くこと
- オ 話し合うこと
- カ そのた ほかに思いつくことがあれば、書きましょう。

キ すきなことはなかった

- 2 主人公の気持ちや行動に対して、「その気持ち分かるなあ。」と思ったり、「自分だったら○○するなあ。」と考えたりすることはありましたか。

ア よくあった イ どちらかといえばあった ウ どちらかといえばなかった エ なかった

- 3 自分の考えと違う友だち^{ちが}の考えを聞いて、「なるほど」「そんな考え方もあったんだ」などと思ったことはありましたか。

ア よくあった イ どちらかといえばあった ウ どちらかといえばなかった エ なかった

- 4 友だちの考えをさんこうにして、考えていましたか。

ア よくあった イ どちらかといえばあった ウ どちらかといえばなかった エ なかった

- 5 キャップハンディ体験をして、自分の考えがさらによくなることができましたか。
(事後のみ)

ア よくあった イ どちらかといえばあった ウ どちらかといえばなかった エ なかった

- 6 道徳の学習をして、大切な考え方や、自分の良さや弱さに気がつくことができましたか。

ア よくあった イ どちらかといえばあった ウ どちらかといえばなかった エ なかった

- 7 道徳の学習をして、これからの自分の生活に生かしていきたいことが見つかりましたか。

ア よくあった イ どちらかといえばあった ウ どちらかといえばなかった エ なかった

道徳アンケート 高学年用

H28年 月 日

6年 組 番 名前

アンケートの書き方

- 1 今日のことで答えましょう。
- 2 ア イ ウ エ に○をつけましょう。

1 道徳の学習で、どんなことが好きですか。好きなこと全部に、○をつけましょう。
なかった人は、キ に○をつけましょう。

- ア 話を聞いたり読んだりすること イ 考えること
ウ 発表すること（話すこと） エ 友だちの考えを聞くこと
オ 話し合うこと
カ そのた ほかに思いつくことがあれば、書きましょう。

キ すきなことはなかった

2 主人公の気持ちや行動に対して、「自分と似たところがあったなあ。」と思ったり、
「自分だったら○○するなあ。」と考えたりすることはありましたか。

ア よくあった イ どちらかといえばあった ウ どちらかといえばなかった エ なかった

3 自分の考えと違う友だちの考えを聞いて、「その考え分かる。」「そんな考え方もあったんだ」
などと思ったことはありましたか。

ア よくあった イ どちらかといえばあった ウ どちらかといえばなかった エ なかった

4 友だちの考えをさんこうにして、考えていましたか。

ア よくあった イ どちらかといえばあった ウ どちらかといえばなかった エ なかった

5 友だちと話し合っ、いい考えや、新しい考えなどが思いつきましたか。

ア よくあった イ どちらかといえばあった ウ どちらかといえばなかった エ なかった

6 道徳の学習をして大切な考え方が分かったり、自分の課題や目標が見つかったりしましたか。

ア よくあった イ どちらかといえばあった ウ どちらかといえばなかった エ なかった

7 道徳の学習をして、自分がよりよく生きて行くためには、どのような行動をしていけば
いいか分かりましたか。

ア よく分かった イ どちらかといえば分かった ウ どちらかといえば分からなかった エ 分からなかった